

コロナ社会対応ビジネスモデル創造事業補助金実績報告（公開用）

令和3年2月28日

項目	内容
事業者名	須河車体株式会社 代表取締役 須河 進一
補助事業テーマ	「青空BAR・青空レストランの普及」
事業実施期間	令和2年10月12日 ～ 令和2年2月28日
事業の目的	①新たな事業の柱をつくる ②新たな市場をつくる ③京都産業の活性化
事業の実績 (成果)	<p>①車両の完成。 実際に車両を完成させたことで、キッチンカー機能としてのスペックや品質、製造課題が明確になりました。二台目以降の生産については、コストダウンを図り、適正な売価設定、品質基準をもって、製造していきます。</p> <p>②ヒアリングの実施 当社がバートラック（キッチンカー）を制作するという事で、多くの飲食関係の方が興味を持ってくださいました。「購入」は初期投資の費用がかかるのでハードルに感じる方が多かったのですが「レンタル」に関しては、「一度つかってみたい」という方が多く、「どのような利用シーンで使うか」によって結果が分かれました。課題となったのが「営業場所」と「収益性」でした。具体的には、出店場所や条件の制限、土地や車両の賃借料が事業としての課題であることが分かりました。</p> <p>③京都産業の活性化 バートラックの可能性としては、申請当初から狙いとしている「密」を避ける新しい形態として、移動店舗車による飲食業や観光産業の集客装置としていこうというものです。「移動できる」ということを強みに、また「コミュニティ形成」という視点を取り入れて運用をすることで、より高い付加価値をつくれると考えております。現在はコロナ禍という外部環境ですが、今回の経験を通じて、「コミュニケーションの在り方」や「働き方・生き方」を見つめ直す機会を多くの方が経験したことかと思えます。その中で「食」を軸に、多様なコミュニティ形成ができる「ハコ」としての機能を充実、拡大していくのがバートラックの役目であると考えております。事業として、利益を生み出すことはもちろんですが、地域貢献・京都貢献という観点を軸に、事業拡大を図っていきます。</p>
今後の展望	<p>今後は当初から予定をしておりましたスピリッツメーカー様や京都の酒造メーカー様、またリース会社様等にアプローチをかけて、販売台数を伸ばしていただけるように営業活動を進めてまいります。台数を多く生産できることで、生産にかかるコストダウンにも繋がりますので、京都での事業展開のみならず全国での「2tトラックのキッチンカー市場シェアナンバー1」を目指して活動を推進していきます。事業の継続性という観点からは、今後もキッチンカーの需要は高まっていくと考えられますから、当社の強みである「顧客の要望に応える（一品一様の）ものづくり」とそれを一定規模生産できる設備・人員体制を活かして、お客様に満足いただく車両を制作してまいります。また、バートラックの運用については、別法人を立ち上げ、地域の農家の方や酒造メーカー、バーテンダーの方、大学や行政など、多方面の方が連携をとれるような仕組みづくりを推進してまいります。</p>